



つくば Times

Vol. 5
2012.8.20

大会委員長寄稿文

日本生物学オリンピック 2012 を終えて

日本生物学オリンピック2012に出場の皆さん、ご苦労様でした。皆さんの生物学に対する熱意で、暑いつくばが更にあつくなりました。今回の実験試験は、専門的な事柄も含まれていたためか、「分からなかった」、「できなかった」との会話を多く聞きました。でも、そう言いながら、ほとんどの人はニコニコとしており、生物の実験に取り組む楽しさ、充実感に溢れているようでした。また、試験後の解説の際には、かなり高度な内容にもかかわらず、メモをとりながら熱心に聞いている皆さんに圧倒されました。実験は、ほんの小さなことが原因で、異なった結果になってしまう場合もあります。今回、残念ながら賞を逃してしまった皆さんも、これにくじけることなく、生物学の不思議を追い続けてください。また、世界大会への道が開けた皆さんは、更に良い結果を目指して、これからも勉強を重ねてください。

私が何よりもうらやましく、また、頼もしく感じたのは、初日の開会式が始まる時には、すでに旧知の人であるかのように、語らい、笑いあっている皆さんの姿でした。そして、その輪が4日間を通して広がって行くのは、本当にすばらしく思いました。つくばの地で培った友情を、是非これからも大切にしてください。

SCIBO、Team-Jの皆さんを始め、サポート頂いた生物学類の学生の皆さんに感謝いたします。また、本選に出場した皆さんの中から、次回につくば大会で、おそろいのTシャツ姿でサポート頂ける学生さんが生まれることを、本当に楽しみにしています。

(文：濱健夫)



表彰式 ~つくばでの4日間を終えて~



笑みを浮かべる安積選手

最終日の4日目、国際会議場で生物学オリンピック2012本戦の表彰式が行われた。漆原秀子先生(筑波大)の司会により表彰式は厳格な雰囲気の中進化した。初めに石和貞夫JBO運営委員長は総評で、今回出場の申し込み数が3639人と過去最高人数であったことを述べ、生物学オリンピックを戦い抜いた選手達へ労いの言葉をかけた。表彰式では、11名に金賞、10名に銀賞、20名に銅賞が贈られ、その中から日本

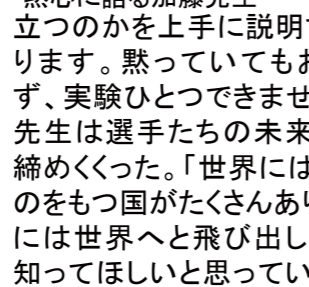
代表候補者15名が発表された。また、特別賞としてシンガポール大会銀メダリスト達にプラチナ賞、実験試験第一位選手にはつくば科学万博記念財団理事長賞、総合成績第一位の選手に茨城県知事賞、第二位の選手にはつくば市長賞、第三位の選手に筑波大学長賞、そして高校生に交じり奮闘した中学生に生物学類長賞が贈られた。さらに、今回ユニークな賞として、カイコからアラタ体と脳をきれいに剥離した上村和也君(長岡高)にはアラタ体賞が、抜群の正確さで酵素反応を測定した林優作君(筑波大付属駒場高)にはペクチン賞が贈られた。彼らには副賞としてそれぞれ繭の詰め合わせ、フルーチェ箱とニホンアカガエルの透明骨格標本が渡され、会場内で笑いがおこった。栄えある総合成績第一位に輝いたのは安積沙羅々さん(豊島岡女子学園高)で「結果が出るまで不安だったからほっとした。失敗があったのでこれはダメかと思ったけれど、良い結果を出せてよかった。」と笑顔で語った。「ここで得た仲間は一生の宝。10年、20年後にこのつくば大会は良き思い出となったと思える日が来るでしょう。」という浅島誠(JBO委員長)の言葉をもって生物学オリンピック2012本戦に終わりが告げられた。

(文：菅原・写真：戸祭)

「実験はするな」、「毎日15:30からティータイムをとれ」。加藤和人先生(大阪大院)による講演のなかで語られたイギリスでの体験は、自身にとっても刺激的なものであったようだ。イギリスでは、考える事、議論する事が重要視されている。「新しい概念をどう作るか、自分の持つ疑問は何か」を考える事なく実験ばかりしている研究者は尊敬されないのだという。ティータイムは学生だけでなく教授自らも出向き、実験プランを話し合ったり、時には他の研究室の教授に論文原稿を見せて議論したりするのだと説明した。また、イギリスの研究者は研究費を集めるため国だけでなく私的な財団から援助を受ける。ある財団はユニークな資金集めをしていて、お昼過ぎにお金持ちの奥様がカップ片手に町に出かけ、路肩で「We fight cancer, give me

penny.」と募金を呼びかけるのだという。「このときのお金の集まりやすさは財団についての説明の上手さにかかっています」と先生は説明する。「これは研究者も同様で、プロの研究者は、自分が何をしようとしているのか、それがどのように社会で役立つのかを上手に説明する必要があります。黙っていてもお金は集まらず、実験ひとつできません。」さらに、先生は選手たちの未来を鑑みてこう締めくくった。「世界には日本と違うものをもつ国がたくさんあります。皆さんには世界へと飛び出し、その違いを知ってほしいと思っています。世界を

熱心に語る加藤先生



動かすのは皆さんひとりひとりなのです。」講演の後、「生物学や生命科学の研究は、どんなことで社会に貢献できると思うか」、「生物学や生命科学の研究から、どのような倫理的、社会的課題が生まれる可能性があると思うか」というテーマで選手たち自身が考え、意見を出し合った。ディスカッション後の発表の時間では、「実験動物の権利の問題」や「ヒトゲノム解析が引き起こすゲノム差別に伴い親が子を選ぶ時代がくるのではないか」、など生物学オリンピック出場選手の面目躍如といった興味深い意見が飛び出した。先生は、研究者と一般の方々がサイエンスコミュニケーションをとる難しさを述べた上で、「皆さんがプロとして活躍する将来の役に立てればうれしい」と話した。(文：戸祭・写真：菅原)

科学者のタマゴたちへ

編集長のひとりごと

皆さん、このつくばTimesは如何でしたでしょうか。この最終号が皆さんの手元に届く頃はもう夏休みも終わり、それぞれの日常に戻っているかと思えます。この最終号があの日の「非日常」を思い出すきっかけになってくれれば幸いです。

僕はほとんど取材には赴きませんでした。唯一皆さんの反応を見ることができたのが朝食の時間でした。初日は恐る恐る手にしていたジャーナルも、2日め以降からは進んで取りに来てくれて本当に嬉しかったです。

いつも次の日の朝にはできていたジャーナルですが、それも連日連夜、協力してくれたTeam-Jの編集部の人々のおかげです。上は博士過程1年、下は学部生1年と幅広い年齢構成の中それぞれの予定と折り合いを付けながら取材→執筆と頑張ってくださいました。本当に感謝です。

と、そんな素敵な編集部でしたが、ちょっとしたこぼれ話も…。【トイレの中までつくばTimes】これは第一号のサブタイトルです。これを見出しにしようと戸祭くんが頑張っていたのですが、

ソレを阻止。その後しばらく何かにつけて「トイレ」「トイレ」が続きました。うーむ、一発目の記事に「トイレ」はなあ…。【俺のカイコがこんなに解剖しにくいわけがない】第二号の実験試験の記事のタイトル候補。どことなく聞き覚えがあったので却下。テンポはいいのですが…。

今年も涙あり、笑いありの思い出に残る大会になったのではないのでしょうか。皆さん本当にお疲れ様でした！

最後に、濱先生の寄稿文にもありましたが、いつかこのジャーナルを読んで下さった皆さんのうちの誰かと同じ色のTシャツを来て一緒に取材に行ける日が来ることを楽しみにしています。最高の4日間をありがとうございました。また何処かで会いましょう！ツイッター→@tkb_teamj やっているの感想意見ありましたら、どんどんりプライヤ、DMを飛ばしてくださいね！(文：島田)



(文：SCIBOリーダー 齋藤史織)



★選手・スタッフ達の声★

夏休みが五日しかなかったから、つくばに来て夏休みが伸びたことが良かった。(日田くん)

あっという間だった。心配だったエクスカージョンもSCIBOがしっかり動いてくれて無事終わらせて良かった。ちょっとね～(SCIBO齋藤さん)

最初の1、2日目は選手達をリラックスさせるために肩のカエルをつけていた。3、4日目はつけたままにしていた。(SCIBO木村くん)

これうまい！
(二の宮TA新井くん)

みんなができていたと思われたので不安だった。実験はあたたしたけれど結果的には良かった。(林くん)

二年前の悔しさはここで果たした！(山本くん)

最後のチャンスで取れて本当にうれしい！
(佐藤くん)

初くば！初金メダル！
(横山くん)

茨城県知事賞

安積 紗羅々 (豊島岡女子学園高等学校)

つくば市長賞

今井松 健也 (山梨県立都留高等学校)

筑波大学長賞

横山 純士 (東京都立西高等学校)

つくば科学万博記念財団理事長賞

吉川 武文 (灘高等学校)

金賞(11名)

安積 紗羅々 古川 渉太
今井松 健也 中島 蒼
横山 純士 吉川 拓寿
新宅 和憲 副島 智大
吉川 武文
野口 智弘
真田 兼行

銅賞(20名)

太田 毅 鈴木 康浩
野仲 航司 橋本 崇志
佐藤 佑樹 鈴木 征敏
堀川 由佳 竹内 美穂
中村 絢斗 乾 直人
山本 武正 鹿間 滉之
吉田 晴香 橋立 佳央理
石崎 光理 北村 優佳
上羽 利瑛子 今野 直輝
後藤 昂宏 藏田 展洋

銀賞(10名)

角田 淳平 三浦 宏介
池田 諭史 榑田 和花奈
隈 宙音 相澤 陽太
上村 和也 鈴木 瑠偉
木村 郷子
橋本 沙也加

筑波大学生物学類長賞(7名)

乾 直人 茂木 隆伸
鹿間 滉之 重松 彩乃
今野 直輝 外山 太郎
末岡 陽太郎

日本代表候補(15名)

横山 純士 榑田 和花奈 乾 直人
新宅 和憲 中村 絢斗 鹿間 滉之
真田 兼行 吉田 晴香 橋立 佳央理
池田 諭史 上羽 利瑛子 今野 直輝
隈 宙音 後藤 昂宏 藏田 展洋

アラタ体賞

上村 和也

ペクチン賞

林 優作